鳥取の春を追う旅、歴史とロマンの若桜路へ

鳥取県南東部の山間部に位置する若桜（わかさ）町。少し前まで一面銀世界だった大地も、桜前線の到来とともにすっかり春色です。江戸時代の宿場町の面影を残す町並みや、昭和初期の開業当時の駅舎が残るローカル鉄道。この春、歴史とロマンあふれる「若桜路」を目的地に鳥取へ出掛けませんか。

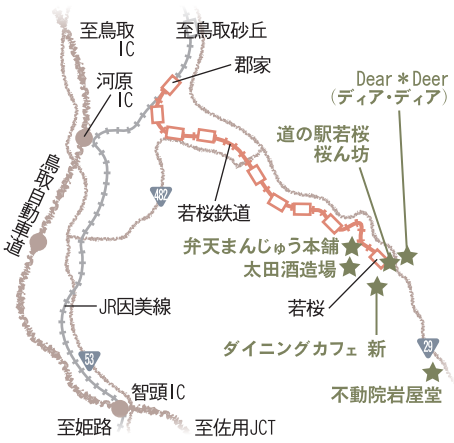
写真1、3／若桜駅構内に展示されている蒸気機関車。4月11日のイベントでは若桜～八東駅間を通る。同2／若桜駅の椋田幸雄駅長と、現行の車両。同4／古民家を改修した「ダイニングカフェ 新」の「豚トロ角煮丼」は1日10食限定。同5／鹿革のバッグなどがディスプレーされた「Dear＊Deer（ディア・ディア）」の店内。同6／国の重要文化財にも指定されている不動院岩屋堂

4月11日（土）に若桜駅で「SL走行社会実験」を開催！

目的地の若桜路（わかさじ）は、八頭（やず）町と若桜町の2つの小さな町にまたがる一帯を指します。そこで、現地での移動は両町を結ぶローカル線、JR郡家（こおげ）駅に乗り入れの若桜鉄道を利用してみましょう。駅舎や橋など沿線の23施設が、1930（昭和5）年の開通当時の状態で残る国の登録有形文化財。車窓には手付かずの自然林、特産の梨や柿のフルーツ畑、開花間近の桜の木…。30分ほどの列車旅ですが、日常では味わえない趣に満ちています。

この終着駅が若桜駅。機関車を方向転換させる手動式転車台や給水塔などの鉄道遺産が残り、蒸気機関車も展示された構内が、春は桜に囲まれるとなれば、誰もが鉄道ファンになりそうです。また4月11日（土）には、展示中のSLをディーゼル機関車でけん引・推進する「SL走行社会実験」を開催。45年ぶりに同路線をSLが通ります。

駅を出たら散策へ。旧家の白壁土蔵が並ぶ「蔵通り」、道路との間にひさしを設けた家並みが続く「仮屋（かりや）通り」では往時の面影に浸りましょう。昼は「ダイニングカフェ 新（あらた）」で「豚トロ角煮丼」を堪能あれ。



若桜町の新しい特産品 鹿肉の美味ジビエ

おなかを満たしたら、再び散策です。例えば「Dear＊Deer（ディア・ディア）」は、鹿革の商品を製作・販売する珍しい店。「革のシルク」とも呼ばれる鹿革は軽くてきめ細やか、人気は洗顔用ミトンです。道を挟んだ向かいの「道の駅若桜 桜ん坊」は、地元の素材を生かした料理をバイキング形式で提供。グラム単位でもオーダーできるので、小腹が空いたときにいかが。土産物もそろっていますが、町の新たな特産品という鹿肉のウインナーやスモークを手に取るのもお忘れなく（12面にプレゼントあり）。

同駅からバスで約10分の「不動院岩屋堂」は自然の岩窟内にある舞台造りの建物で、見上げるとその迫力に圧倒されます。また年に2回だけ本尊の不動明王が公開され、その1回が3月28日（土）というのも、春の若桜路を目指す理由として十分ではないでしょうか。

土産に！ ①弁天まんじゅう

1910（明治43）年創業の「弁天まんじゅう本舗」の米粉のまんじゅうは、商売繁盛や縁結びで知られる「若桜弁財天」にちなんだ名物。表面には「鶴・亀・桜」の3種類の模様が型押しされた縁起物でもあり、絶妙な甘さが若い女性にも大人気です。5個500円など。

土産に！ ②地酒「辨天娘」

若桜町で1909（明治42）年に創業した「太田酒造場」が、地元で栽培した酒米を使って造る純米酒です。熱かんにしても味が崩れず、香りも控えめに米の味わいが広がるので、料理と一緒に楽しめます。1800ミリリットル3500円、720ミリリットル1750円など。

周辺のトピック 「砂の美術館」の第8期展示

「砂の美術館」（鳥取市福部町湯山）で4月18日（土）から、第8期展示「砂で世界旅行・ドイツ編」がスタート。ノイシュバンシュタイン城や、グリム童話の世界が、これまで以上に立体感と奥行きのある砂像で再現されます。（写真は第7期展示）

若桜町までのアクセス >>> 電車…JR名古屋→（新幹線）→JR姫路→（スーパーはくと）→JR郡家（こおげ）で若桜鉄道に乗り換え「若桜」駅へ（約4時間30分）　車…一宮IC→（名神高速→中国道）→佐用JCT→鳥取自動車道（無料）で河原IC下車、国道29号線で「若桜」駅へ（約340km）

問い合わせ >>> ふるさと鳥取県産業・観光センター（中区栄4・1・1　中日ビル4階）　電話052・262・5411　http://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/

中日新聞社発行「ショッパー」（2015年3月19日号）